飛鳥資料館　展示品紹介「高松塚古墳　墳丘断面　はぎとり標本」

「飛鳥美人」の壁画で知られる高松塚古墳（奈良県高市郡明日香村）では、石材ごと壁画を取り出す作業にともなって2006・2007年に発掘調査を実施しました。調査の結果、高松塚古墳の墳丘は石室を組み立てながら突き固めた下位版築（はんちく）と、石室を閉塞した後にさらに盛り上げた上位版築、版築状盛土からなることがわかりました。版築とは、薄く敷いた土の層を棒で叩きしめる作業を何十回と繰り返して、よくしまった強い盛土を造る手法です。調査終了後、その墳丘の断面をうすくはぎとり、その後の検討や展示のための資料としました。

飛鳥資料館の第一展示室では、下位版築のはぎとり標本を常設展示しています。標本の奥行きは１cmもありませんが、幅４m、高さ3.5mにもなる、高松塚古墳の墳丘断面そのものをご覧いただけます。精緻（せいち）に突き固められた版築の層を前にして、高松塚古墳が築造された飛鳥時代の光景に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。（飛鳥資料館　竹内 祥一朗）

開館時間：９：00～16：30（入館は16：00まで）／休館日：月曜日（月曜が休日の場合は翌平日）、年末年始（12月26日～１月３日）
ホームページ：https://www.nabunken.go.jp/asuka/　お問合せ：☎ 0744-54-3561

令和５年度平城宮跡資料館秋期特別展
都城発掘調査部創設60周年記念
「女帝のいのり－発掘された西大寺と西隆寺－」

西大寺は平城宮の西方に位置する大寺院で、称徳天皇による創建から今日にいたるまで、1250年以上もの長きにわたり法灯が守り伝えられてきました。しかし、創建時の壮大な伽藍の痕跡が、現在の住宅地の地下に広く眠っていることは、意外と知られていません。また、西大寺の東には尼寺である西隆寺が、同じく称徳天皇によって造営されましたが、現在その姿を見ることはできません。

奈良時代の西大寺と西隆寺の寺観を再び蘇らせたのは、昭和・平成の開発事業にともなう数々の発掘調査でした。それから数十年の時が経って再開発が進むなか、遺跡をいかにして後世に伝えていくかを改めて考える機会を得ました。

こうした現状をふまえて、私たちは、本特別展をとおして多くの方々に地域の財産である遺跡の歴史的価値をご理解いただき、将来、その保存と活用につなげていきたいと考えています。（企画調整部　小原 俊行）

会　　期：令和５年10月28日（土）～令和６年２月12日（月・振替休日）
開館時間：９：00～16：30（入館は16：00まで）／休館日：月曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始（12月26日～１月３日）
関連イベント：１月27日（土）13：30～15：00　「土器に墨書しよう！」（詳細はホームページをご覧ください）
ホームページ：https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/　お問合せ：☎ 0742-30-6753（連携推進課）

■　記　録

文化財担当者研修

○文化財三次元計測課程入門
　８月30日（水）～９月１日（金）　12名
○文化財三次元計測課程
　10月２日（月）～10月６日（金）　28名
○保存科学金属製遺物課程
　10月10日（火）～10月18日（水）　14名
○文化財写真課程
　11月20日（月）～12月１日（金）　16名
○報告書編集基礎課程
　12月４日（月）～12月８日（金）　24名

平城宮跡資料館　夏期企画展

「イカロスの翼
　－薬師寺の発掘成果から見る近世と近代－」
　７月22日（土）～10月１日（日）　5,370人

飛鳥資料館　秋期特別展

「川原寺と祈りのかけら」
　10月６日（金）～12月10日（日）　6,919人

第129回公開講演会

「まぼろしの尼寺西隆寺」
　11月11日（土）　185名

西大寺特別公開講演会

「奈良時代の西大寺　よみがえる創建伽藍」
　12月９日（土）　198名
　（オンライン参加　52名）

編集　「奈文研ニュース」編集委員会
発行　奈良文化財研究所　https://www.nabunken.go.jp
Ｅメール　koho_nabunken@nich.go.jp
発行年月　2023年12月